

膀胱瘻バルーンカテーテル

再使用禁止

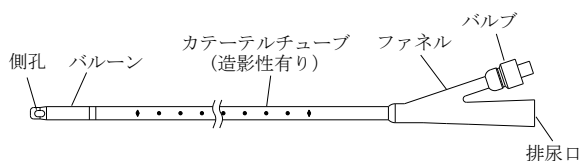
【禁忌・禁止】

再使用禁止。

【形状・構造及び原理等】

本品はエチレンオキサイドガス滅菌済である。

〈形状〉



下記の一覧表に記した規格は弊社規格品の仕様である。特注品の製品規格については、個包装に記載された規格を参照すること。

・膀胱瘻バルーンカテーテル（FLタイプ）

サイズ 呼称	規定 容量	外径	全長	バルブ カラー	デブスマーク	先端孔・ 側孔
12Fr	5mL	4.0mm	430mm	ホワイト	先端から 50～300mm まで 10mm 間隔	先端 1 孔 側孔 2 孔
14Fr		4.7mm		グリーン		
16Fr		5.3mm		オレンジ		
18Fr		6.0mm		レッド		
20Fr		6.7mm		イエロー		

・膀胱瘻バルーンカテーテル（FMタイプ）

サイズ 呼称	規定 容量	外径	全長	バルブ カラー	デブスマーク	先端孔・ 側孔
12Fr	5mL	4.0mm	340mm	ホワイト	先端から 50～200mm まで 10mm 間隔	先端 1 孔 側孔 2 孔
14Fr		4.7mm		グリーン		
16Fr		5.3mm		オレンジ		
18Fr		6.0mm		レッド		
20Fr		6.7mm		イエロー		
22Fr		7.3mm		バイレット		
24Fr		8.0mm		ブルー		

・膀胱瘻バルーンカテーテル（FSタイプ）

サイズ 呼称	規定 容量	外径	全長	バルブ カラー	デブスマーク	先端孔・ 側孔
12Fr	5mL	4.0mm	250mm	ホワイト	先端から 50～150mm まで 10mm 間隔	先端 1 孔 側孔 2 孔
14Fr		4.7mm		グリーン		
16Fr		5.3mm		オレンジ		
18Fr		6.0mm		レッド		
20Fr		6.7mm		イエロー		

〈原材料〉

シリコーンゴム

〈原理〉

カテーテルのバルブからシリンジで滅菌蒸留水を注入することによりバルーンが拡張し、留置が可能となる。注入した滅菌蒸留水を吸引することによりバルーンが収縮し、抜去が可能となる。尿は先端孔・側孔から内腔を通り、排尿口より排出される。

【使用目的又は効果】

短期的使用を目的として、経皮的に膀胱に挿入、留置し、導尿、造影剤注入に使用する。

【使用方法等】

以下の使用方法は一般的な使用方法である。

〈カテーテル交換時の使用方法〉

- ①既に膀胱瘻に留置されているカテーテル類を、それぞれの製品の使用方法に準じて抜去する（本品の抜去方法は、下記〈カテーテルの抜去方法〉を参照のこと）。
- ②瘻孔周囲の皮膚消毒を行う。
- ③本品を挿入する際、バルーン後端部付近を保持し、カテーテル先端から瘻孔へ挿入していき、挿入前と同じ深さまで進める（必要に応じてカテーテル先端に潤滑ゼリーを塗布する）。カテーテル挿入位置を必ず確認する。
- ④一般のディスポーザブルシリンジを用いて、規定容量の滅菌蒸留水をバルブから注入し、バルーンを拡張させる（必要に応じてカテーテルを固定板又はガーゼで皮膚固定する）。
- ⑤カテーテル排尿口に尿バッグ等を接続する。

〈カテーテルの抜去方法〉

- ①一般のディスポーザブルシリンジを用いて、バルブからバルーン内の滅菌蒸留水を抜き取る。
- ②カテーテルを瘻孔部から静かに抜く。

〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

- ①バルーンを拡張又は収縮する際は、以下のことに注意すること。
 - 1) バルーン拡張には滅菌蒸留水以外を使用しないこと。
[生理食塩液、造影剤等を使用した場合は、成分が凝固し抜水できなくなる恐れがある。]
 - 2) バルーンを拡張又は収縮させる際は、一般的なスリップタイプのディスポーザブルシリンジを用いること。
[ロックタイプのシリンジではバルブ奥まで確実に挿入できない。また、テープの合わないものはバルブの損傷につながる。]
 - 3) バルーンを拡張・収縮させる際は、シリンジ先端をバルブの奥まで確実に挿入し、操作を行うこと。
[バルブへのシリンジ先端の挿入が不十分な場合、バルブ内の弁が作動せず、バルーン操作が行えない場合がある。]
 - 4) バルーンを拡張する際はゆっくり慎重に行うこと。
[急激に注入するとその圧力によりまれにバルブがズレ、時には外れることがある。]
 - 5) バルーンには規定容量以上の滅菌蒸留水を注入しないこと。
[過度に注入するとバルーンに負荷がかかり、バーストの原因となる。]
 - 6) シリンジを外す際は、必ずバルブを押さえ、シリンジを回転させながら外すこと。
[まれにバルブがズレ、時には外れることがある。]
- ②カテーテル排尿口に尿バッグ又はチューブ等を接続する場合は、確実に嵌合するものを選択すること。また使用中は接続部の漏れや緩みがないか適宜確認し、確実に接続された状態で使用すること。

- ③排尿口に尿バッグのコネクター等を接続する際は、尿バッグのコネクター等を排尿口内腔に沿ってまっすぐに挿入すること。この状態で、排尿口を曲げる、捻る、あるいは挟むといった負荷をかけないこと。
[尿バッグのコネクター等の先端が排尿口内腔を傷付け、排尿口の亀裂、断裂に至る恐れがある。]
- ④カテーテルを皮膚に固定する場合は固定板等を使用し、カテーテルを糸で直接固定しないこと。
[閉塞や断裂の恐れがある。]
- ⑤カテーテル交換の際は、遅延なく交換ができるように、全てを準備してからカテーテルを抜去すること。
[カテーテル抜去後、時間が経つと再挿入が困難になる。]

【使用上の注意】

〈使用注意〉(次の患者には慎重に適用すること)

瘻孔に狭窄のある症例には適用可能かを事前に確認すること。
[組織、瘻孔の損傷の恐れがある。]

〈重要な基本的注意〉

- ①カテーテル留置中はカテーテルの留置状態を適切に管理すること。必要に応じてX線透視等によりカテーテルの留置状態を確認すること。
[カテーテルの折れ、曲がり、捻れ、又は尿成分及び結石等により、カテーテル内腔が閉塞する場合がある。]
[結石によりバルーンがバーストしたり、自然リークによりバルーンが収縮する場合がある。]
- ②1週間に1度を目安にバルーン内の滅菌蒸留水をすべて抜き、再度規定容量の滅菌蒸留水を注入すること。
- ③本品を鉗子等で強く掴まないこと。
[カテーテルの切断、ルーメンの閉塞、バルーンの破損を引き起こす恐れがある。]
- ④膀胱瘻造設術後、初回のカテーテル交換は十分注意して操作すること。
[瘻孔形成が十分にされていない場合、カテーテル抜去後のカテーテル再挿入困難、カテーテルの膀胱外留置を引き起こす恐れがある。]

〈不具合・有害事象〉

その他の不具合

- ①バルーンのパースト。
[下記のような原因によるパースト。]
・挿入時の取扱いによる傷（ピンセット、鉗子、はさみ、メス、その他の器具での損傷）。
・注入量の過多（規定容量以上の注入）。
・バルーン拡張に誤った物質の注入（生理食塩液や造影剤等成分の凝固が起こりやすい物質）。
・患者の結石による傷。
・自己（事故）抜去等の製品への急激な負荷。
・結晶化した尿のバルーンへの付着。
・その他上記事象等が要因となる複合的な原因。
- ②カテーテルの閉塞。
[カテーテル内腔が尿成分の付着や血塊等により、閉塞することがある。]
- ③カテーテルの抜去不能。
[バルーン拡張に生理食塩液や造影剤を用いると、成分の凝固に伴いバルーンルーメンが閉塞し、抜水ができなくなる恐れがある。]
- ④カテーテルの切断。
[下記のような原因による切断。]
・ピンセット、鉗子、はさみ、メス、その他の器具での損傷。
・患者の結石による傷。
・自己（事故）抜去等の製品への急激な負荷。
・その他上記事象等が要因となる複合的な原因。

その他の有害事象

本品の使用により、以下の有害事象が発症する恐れがある。

- ・感染症
- ・菌血症
- ・膀胱結石
- ・血尿（出血）
- ・発熱
- ・疼痛
- ・瘻孔の損傷又は拡張
- ・カテーテルの移動又は脱落に伴う瘻孔閉塞
[バルーンバースト、自己（事故）抜去等]
- ・瘻孔周囲のスキントラブル（肉芽形成、発赤、皮膚潰瘍、圧迫壊死）
[皮膚への接触及び尿の漏出等]
- ・カテーテルの切断に伴う体内遺残

〈妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用〉

妊娠している、あるいはその可能性がある患者にX線を使用する場合は、注意すること。

[X線による胎児への影響が懸念される。]

【保管方法及び有効期間等】

〈保管方法〉

水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿、殺菌灯等の紫外線を避けて清潔に保管すること。

〈有効期間〉

適正な保管方法が保たれていた場合、個包装に記載の使用期限を参照のこと。

[自己認証（当社データ）による。]

〈使用期間〉

本品の留置期間は30日以内である。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

〈製造販売業者〉

クリエートメディック株式会社

電話番号：045-943-3929